

第61回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分科会名	第2分科会	演題番号	204
題名	静岡県における拡大新生児マススクリーニングの導入と現状		
所属	静岡県立こども病院血液腫瘍科		
氏名	渡邊 健一郎		
要旨 (簡潔に)	<p>【背景】近年、難病に対する新たな診断技術、治療法の開発に伴い、従来の新生児マススクリーニング(公費スクリーニング)の対象となっていない、重症複合免疫不全症(SCID)、脊髄性筋萎縮症(SMA)、ライソゾーム病等を対象とする拡大新生児スクリーニング(拡大スクリーニング)が、全国的な広がりをみせている。しかし、静岡県では取り組みがない状況であった。</p> <p>【方法】静岡県立こども病院、浜松医科大学、聖隷浜松病院の有志で、静岡希少疾患ネットワーク(ネットワーク)を組織し、静岡県立こども病院を実施主体、静岡県予防医学協会を検査施設として、県全域をカバーする拡大スクリーニング検査体制を整備した。分娩施設へは、静岡県産婦人科医会、静岡産科婦人科学会と連携して周知した。また、ホームページ(https://shizuoka-rdn.jp)を開設し、対象疾患、検査の概要、検査実施施設の情報を容易に取得できるようにした。</p> <p>【結果】2023年10月末より静岡県立こども病院から静岡県における拡大スクリーニングを開始した。2024年12月現在、参加施設は48施設まで増加し、静岡県の出生児の70%以上をカバーできるようになってきている。参加施設での同意率は平均75~80%程度であり、同意率が100%の施設がある一方、一部の施設で同意率が低いのが課題となっている。また、陽性者に対する対応は、ネットワークで連携して円滑に行うことができている。</p> <p>【考察】静岡県において、全県をカバーする拡大新生児スクリーニング検査体制を構築した。今後は、さらなる参加施設の拡大、公費化に向けた対応、受検者のフォローアップを行い、より良い新生児スクリーニング体制を整備し、難病のこども達が早期に診断され、適切な治療を受けられるようにしていきたい。SCID、SMAについては、公費化に向けて、こども家庭庁主導で実証事業が開始されており、参加に向けて行政との連携が必要である。</p>		